

読者の方から、お便りをいただきました。

「幼児の教育」の愛読者です。二十年前、三十歳、家庭をもってから、ご縁があり、保育免許を使うことになりました。四十年代に入ったばかりの当時は、幼児教育に関する情報は少く、何を手がかりに毎日を探すにはよく迷う毎日でした。光の失せた目をした子が自由遊びの時にだけみせる輝き。ふき出るエネルギー。熱心さ。何かを訴えているようにも思えました。このところを活用して保育ができないか。探し求めて、行きついたのが「幼児の教育」でした。以来、この雑誌は私の支えであり、保育の考え方の示唆を与えてくれました。(中略)

保育への示唆を与えてくださる方々の文字で埋めてほしいと願っています。ありがとうございます。努力します。

六月―梅雨―じめじめ―の連想は、あまりに固定化しすぎていないだろうか? 「五月晴れ」は梅雨の晴れまの意味だ

と、新聞の天気欄にあった……。

それにしても、車がこれほどまでに普及し、道路も舗装されている現代、子ども達は、傘をさし、長靴をはいて、雨を楽しむことがあるのだろうか? 水溜まりも、はねも、泥くさくなくなつた。今、泥に出会うためには、土を探し、水運ばなくてはならない。たいそうなことになつたものだ。

こんなことがあつた。霧雨の中、あじさいの若葉が繁る中で、子ども達が遊んでいる。若葉のムツとする中、そこだけはおかしい色の傘の花が咲き、空気がひんやりと透きとおっている様。手足は泥んこ、足もとは泥団子がいっぱい。生命には、緑と雨が似あうなど思っているところへ、「こんなに泥んこになつて!! 雨が降ってるでしょ、家へ入りなさい」と大きな声。その時はなす術もなかったけれど、声の主に「雨と子どもって似あいますね」そう話しかければよかったと、今、思う。

（Ｙ）

幼児の教育 第八十七巻 第六号

六月号

◎

定価 四〇〇円

昭和六十三年 五月二十五日 印刷

昭和六十三年 六月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一―九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製造不良の点がございましたら、おとりかえいたします。